

熱海のヒラメ放流と西伊豆のカサゴ放流

熱海市では、令和4年5月に大熱海漁協という漁協網代支所がヒラメ稚魚の放流を行いました。放流されたヒラメ稚魚は、静岡県温水利用研究センターで生産され（平均全長約30mm）、令和4年4月26日から各漁協の陸上水槽で漁業者が中間育成してきたものです。

大熱海漁協では、令和4年5月17日に伊豆山と曾我浦にて放流を行い、放流時の平均全長は53.1mm、放流数は約5,000尾でした。以前は、市内の小学生が漁船に乗船して放流を行い、当场からはヒラメの生態や放流の目的について説明していましたが、一昨年と昨年に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、漁業者のみで放流を行いました。また、5月27日には上多賀にて放流を行い、放流時の平均全長は60.1mm、放流数は約4,600尾でした。

いとう漁協網代支所では、5月26日にヒラメ稚魚の放流を行い、放流時の平均全長は60.9mm、放流尾数は約7,000尾でした。

西伊豆町では、5月30日にカサゴ稚魚の放流が行われました。この取組は西伊豆町田子に工場を持つ企業が水産資源の確保と地域貢献を目的に、伊豆漁協田子支所や関係者の協力を得て行われています。放流されたカサゴ稚魚は愛知県の種苗生産会社から購入したもので、各地区の放流尾数は田子6,000尾、仁科1,700尾、安良里1,700尾でした。また、一部は、西伊豆町内のこども園の園児によって、大田子海岸から放流されました。その際に当场からは、園児たちにカサゴの生態について説明しました。これをきっかけに園児たちには海に関心を持ってほしいと思います。



写真1 放流準備(網代)



写真2 園児によるカサゴ放流(田子)

(角田充弘)